



# 絆の草中 14

草野中学校だより

発行責任者 校長 丹野 英雄

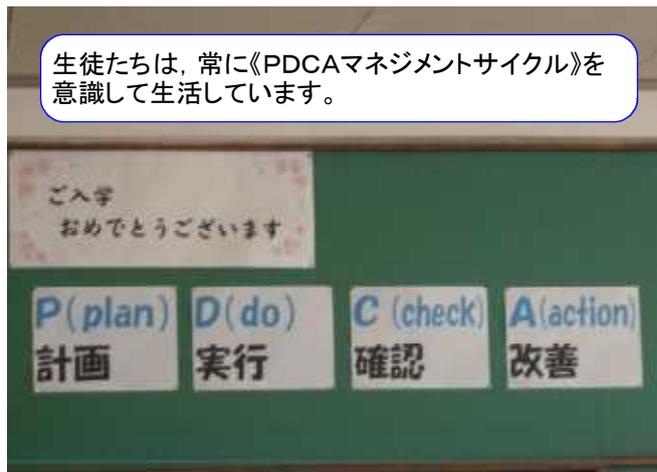
第14号 令和3年5月12日発行

4月28日(水)午後に前期生徒会総会を開催しました。新型コロナウイルス感染防止のため全校生徒が一堂に会する状態を避けて、放送での実施としました。総会当日まで、生徒会本部役員をはじめ、各委員会や学級の代表が中心となって、計画的に総会要項の作成や議案書審議を進めてきました。そして、総会では、各委員会と連携・協力のもと2名の議長の議事進行により、昨年度後期の反省を踏まえて、今年度前期の活動計画や予算案等の審議がなされました。令和3年度の前期生徒会活動基本目標を漢字一文字で表すと「周」…この目標を達成するように期待しています。

どの組織でも、目標を達成するために計画を立てます。計画を立てたなら、実行が求められます。限りある時間を有効に使い成果を上げる努力をします。そして、一定の期間が過ぎたら、取組状況を振り返って確認し、必要に応じて改善を図っていきます。目標達成は、そうしたプロセスから生まれます。計画がP(plan)、実行がD(do)、確認がC(check)、改善がA(action)、目標達成に向けたこうした一連の流れはアルファベットの頭文字をとってPDCAマネジメントサイクルと呼ばれています。本校の生徒会も、こうしたプロセスを経ながら、さらなる発展を目指してほしいと思います。



生徒会長が生徒会本部への質問に対して答弁している場面です。



生徒たちは、常に《PDCAマネジメントサイクル》を意識して生活しています。



前期生徒会活動基本目標は、漢字一文字で《周》



1年生も積極的に質問しています。質問者の奥で着座の2名が議長です。

**生徒会総会を放送で開催しました**

# 環境の変化による「タガ」の緩みはないかな？

おけ  
桶は、板材を隙間がないように組み合わせたうえで、竹を編んだ「タガ」と言われるもので締め上げて作っています。だから、中に入れたものが漏れ出てくることはありません。でも、使い込んでいくと板材同士が軋み合っきして、この「タガ」が緩ゆるんでくることがあります。放っておくと「タガ」が外れ、板材がバラバラになってしまいます。「タガ」が外れるという諺ことわざはここからきています。そうならないように「タガ」が緩んだら、木槌で「タガ」を締め直す必要が出てきます。

これと同じことが人間関係にも言えます。固い絆で結ばれているように見える集団でも一人一人それぞれの見方や考え方があり個性があります。そのため、環境が変化したり、心の不安定な状態が続いたりすると、この桶を形作っている板材と同じように心に軋みが生じ「タガ」が緩んでくることがあります。

桶の場合は、外側から木槌で力を加え、「タガ」を締め直す方法しかありませんが、人間関係の場合は、外側から力を加えなくても集団を作っている内側の人が協力し合うことで、その緩みを自ら締めることができます。これを「自律」と言います。一方、外から力を加えてもらうこ

とは「他律」と言います。

幼い時期は、十分な思考力や判断力が備わっていませんでしたので、お父さんやお母さん、先生など、大人が「タガ」の緩みを修正してくれていたはずですが、中学生は、自分たちの「タガ」の緩みに気づき、自分たちで修正できる力を付けなければなりません。また、その力が備わってくる時期でもあります。1年生は、小学校との違

いに戸惑いながらも、新たな環境にやっと慣れてきたところでしょう。2年生は、クラス替えによって人間関係にも変化が生じ、ようやく学級の雰囲気や形づくられてきたところでしょう。3年生は、最上級生としての自覚が芽生え、責任の重さも感じているところでしょう。

中学生は、いろいろな集団に属しています。学級であったり委

員会であったり部活動であったり、同じ年齢同士のつながりもあれば、年の違いによる先輩・後輩のつながりもあります。所属している集団に軋みが出ていないか、「タガ」の緩みが生じていないか確認をしておきましょう。もし、緩みがあるならば、自分たちの力で修正できる集団に成長してほしいですね。期待しています。



「巨大地震が発生した後、校舎倒壊の危険があるため校庭に避難」さらに「大津波警報が発表されたため花園神社へ二次避難」……このような地震・津波想定での避難訓練を4月15日（木）に実施しました。地震発生時は、「落ちてこない。倒れてこない。動いてこない。」場所に身をひそめること。津波から身を守るためには、津波浸水域からより遠くより高い場所に逃げることをこの2点を指導の重点としました。

また、地震発生時に負傷者が出たことも想定し、二次避難場所である花園神社へ向かう際には、防災備蓄倉庫内にあるリアカーに負傷者を乗せて避難し、急な坂道は数人で担架に乗せ替えて運びました。二次避難場所である花園神社境内は校舎の屋上と同じ目の高さになります。津波も押し寄せてこない高さがあります。しかし、逃げ遅れた場合は、建物内を高いところに垂直避難するしかありません。いざという時には、迅速かつ的確な判断のもとに自他の生命を守る行動ができる資質や能力を身に付ける必要があることを説きました。

## 【教育目標】

自ら学び、考え、正しく判断できる生徒  
絆を大切にし、思いやりを持って行動できる生徒  
進んで運動し、心身ともに健康な生徒



〒970-0101

福島県いわき市平下神谷字宿25番地

TEL 0246-34-2208 FAX 0246-34-2771

E-mail : kusano-jh@city.iwaki.lg.jp